ホセマリア・エスク リバーの列聖式およ び感謝ミサ

10月6日、ローマ教皇ヨハ ネ・パウロ2世はオプス・デ イ創立者ホセマリア・エスク リバーを列聖。参列者は聖ペ トロ広場に入りきれず、通り にまであふれた。翌日、ハビ エル・エチェバリーア司教(オ プス・デイ属人区長)によっ て、感謝ミサが聖ペトロ広場 で行われた。その感謝ミサに 続いて、教皇が入場、大観衆 の参列者に向かって話された 後、ルーマニア正教大主教 Teoctistが来場し謁見した。

たくさんの参列者の中に、医者のマヌエル・ネバード・レイ博士もいた。不治の病である重度の慢性放射線皮膚炎を患っていたが、オプス・ディ創立者ホセマリアの取次ぎで治った。1992年のこと、取次ぎの祈りのカードでお願いし始めてから約二週間で皮膚の腫瘍が完全に消えた。そ

の医学的に説明不可能な治癒が奇跡と認定され、、列聖宣言の扉を開けた。ネバード博士は列聖式に参加して、次のように語った。「私は、考えられないほど幸福です。4人の子供と3人の孫、そして妻とともに来ることができました。70才になった今も、元気でぴんぴんして、ここにいると思うと、その現実に圧倒されます」

心遣いをもって、神への愛を込めて 果たすなら、すべてが聖化すべき仕 事になると説かれたのです|

イタリア政府は参列者を300,000人 と発表。これらの中には、世界中か ら参加した42人の枢機卿および470 人の司教が含まれる。

ポーランドの労働者を率いて「連帯」のリーダーとして活躍し、祖国に民主主義をもたらしたワレサ氏も 出席し、次のように語った。「ついに労働者のための聖人が生まれた」

10月7日、聖ペトロ広場は再び参列者であふれた。ハビエル・エチェバリーア司教(オプス・デイ属人区長)が感謝ミサを捧げ、説教で次のように話した。「家へ帰ったら、新聖人の教えを実行しましょう。毎日の教えを実行しましょう。毎日の教えを取りたる望みと使徒職の熱意を吹き込み、美しい詩、偉大な小説に変えるのです。そのために、聖ホセマリアに教えを願いなさい」

感謝ミサに続いて、教皇ヨハネ・パ ウロ2世が謁見のために聖ペトロ広 場に車で入場すると、大観衆は拍手 で迎え、教皇は手を振って応えた。 その間、たくさんの母親が赤ん坊を 手渡し、祝福を願った。教皇は、そ の度に立ち止まり赤ん坊を抱いて祝 福しながら、祭壇前まで進んで行っ た。到着すると、教皇は大観衆に向 かって話しかけた。聖エスクリバー を評して、聖人自身が常々話してい た | 日常生活の聖人 | であると述 べ、また、多くの国々から集まった 人々を見て、「聖エスクリバーの魂 の中で燃えていた使徒職への熱意の 表れ | であると語った。

教皇謁見の終わりに、ルーマニア正教大主教Teoctistが広場に着き、参列者に挨拶した。1999年5月のルーマニア訪問は、正教国への最初のローマ法王訪問だった。大主教は、その謝意を表すためにローマを訪

問。この日の謁見は、ルーマニア大 主教のローマ訪問最初の公式行事。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ hosemariaesukuribanolie-sheng-shioyobigan-xie-misa/ (2025/11/21)